



夕刊

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

お断り「紙ついで」  
は3面に移しました。

### 紙ついで

生命科学の分野では、放射線は身近な存在。たとえば、放射性同位元素を使う実験は日常的だ。放射能を標識にすると、目に見えない分子の様相を高感度で予測できる。

一方で、放射能を扱う実験は、法律により厳重に管理されている。講義や実習、そして試験。これらを経て「放射線取扱者」と認定されなければ実験できない。

福島原発事故による放射能漏れは、懸命な復旧作業により、鎮静するかに見えた。だが、ここに至って強い放射能による被ばく者が出た。原子炉内にあるべき放射性物質も外に漏れ出ていたと聞く。  
事態は、予想以上に深刻化しているようだ。東京電力や政府

もり いくえ  
森 郁恵

### 「想定外」こそ想定外

から発信される情報は、バラバラのジグソーパズル。刻々と状況が変わるのはわかるが、全貌が見えない。起こってはならない風評被害も誘発していると思う。政府は情報発信を統一し、一刻も早く放射能汚染の拡大を全力で食い止めるべきである。

原発の建設や始動は、安全性が100%でなければ、誰も賛同しないだろう。一千百年前に宮城県沖で貞観地震という大地震が発生、福島県で1・5キロ以内陸まで津波が襲来したという。地球の歴史から言えば千年は一瞬だ。「千年に一度しか起こらない」は通用しない。「千年に一度は起こる可能性がある」と考えるのが当然だろう。原発では「想定外」こそ想定外であるべきだ。逃げ道をつくってはならない。

(名古屋大学教授)

2011.4.1